

マイセルフ

自分らしく

特集

#居場所を求める女の子 たちに

～ 聴く、伝える、繋げる ～



スタッフと打ち合わせ



街中で活動中

私たちが見つけた品川区の

Vol. 15 二十歳の龍馬像



京急立会川駅からすぐ近く、北浜川児童遊園に龍馬像があります。坂本龍馬はこの地に警備のために動員された武士の一人でした。龍馬はこの品川で黒船警固をし、ここから世界と繋がったのです。

ちよつといい所
素敵なおとこ
♪

2018 秋号



- #居場所を求める女の子 たちに
- 男女共同参画センターからのお知らせ

2～5 P

6～8 P

VOL. 58

特集

#居場所を求める女の子たちに

～聴く、伝える、繋げる～



講演会も多数



街中で活動中

特定非営利活動法人『BONDプロジェクト』の代表 橘ジュンさんにお話しを伺いました。



BONDプロジェクトを始めた経緯を教えてください。

街で若い子たちと出会ったことがこのプロジェクトの最初のきっかけです。

私はライターとして、2005年から街に居る女の子や男の子たちの取材をし、聞いた声を『VOICE MAGAZINE』というフリーペーパーにまとめていました。話を聞かせてくれた女の子の中には、もうお腹が大きいのに街に立っている子がいたんですね。そういう女の子が気になったから声をかけました。その子は「妊娠してるけど援交*してる」と言ってきました。

だけ「お金が必要だから。ご飯を食べられないし、寝るところもないし、仕方ないんだ」って。それで「困ってるよね?」と聞いたら「困ってないよ」と。私はそれが衝撃的でした。何かしたい、してもらいたいって望みがある訳ではないことに、かわいそうという言葉では彼女たちの生き様は

くることができないなって思ったし、同情することで彼女たちを楽にすることもできないとも思ってた。きれいごとじゃない現実の中で生きている子たちに、こっこの価値観だけで彼女たちを救うことってできないんだなって。私も娘がいるから、放っておけませんでした。

相談できる場所があるからって紹介すると「なんでそんなことするの?私頼んでいないじゃん!」「警察みたいないところに行くの本当に嫌なんだよ」って。結局、彼女たちは『罪を犯した女性』としてしか見てもらえないから、何か困っていることを一緒に考えて救ってくれる大人たちもいることに気づいていなくて。私たちがあの子たちの声を聞いて、あの子たちがどうしたら困った時に声をあげられるか、声をあげてもいいって思える、そういう場を作れたらと思っています。

『漂流少女』という本を出していますが、



取材風景

これがたぶん私の一番の原点ですね。街に居場所を求める女の子たちの背景には、家に帰りたくないという理由があります。家庭内で虐待を受けていたり、親がDVだったり。それで家庭に居場所がない、だからと言って地域にも居場所がない。結局身近な人に相談できないから、居場所を求めて彷徨うように街に出てくる女の子たちがいる。

*援交・援助交際。金銭の援助を伴う交際。主に未成年の女子が行う売春をいう俗語。

話を聞こうとすると「放っておいてください」「気が向いたら話します」と言われたり、話しはしたけど次に会うと無視されることもあります。それは私があの子たちにとっては関係ない他人だから。嘘をつく必要がないし、気を遣う必要もないから、無理なら無理って言えるその対等の関係性が、彼女たちにとって良かったのだと思います。

色々な子と話していくうちに、ただ話を聞いて、伝えるだけではどうしようもできなくなる子と出会って。その子は妊娠していて、産む選択をしなければならぬ状況の子でした。病院も行っていない、予定日もわからない、住む場所もお金もない、という子が本当にいて。それでその子の場合には病院に連れて行って結局駆け込み出産っていう形になってしまいました。

しつこく病院行こうよって言ったり、赤

特定非営利活動法人

BONDプロジェクト



① ドメスティックバイオレンスにより、帰る場所の無い、又は自宅が精神的な拠り所となれない青少年の保護を行い、

② 社会、家族、友人等に関する人間関係の不信感に対するメンタルケアやカウンセリングを実施し、

③ 問題を抱えた青少年が、就業、生きがい、社会参画できる機会を提供することで、

青少年の健全育成を図ることに寄与することを目的に、2009年に設立した。

孤立した少女を対象に取材活動を続けているライターの橘ジュンを代表とし、渋谷区を拠点に活動している。

「青少年」とは、10代～20代の女性のことを指し、虐待、家出、貧困など様々な困難を一人で抱えてしまう、こうした少女を「漂流少女」と名付け、BONDプロジェクトはこの「漂流少女」に対して、女性による寄り添いの「聴く、伝える、繋ぐ」支援をしている。その日、行き場所のない今、困っている目の前の女の子のために街のパトロールや自主的に保護の活動も行なう。

ラジオなどでも情報を発信している。

自殺対策強化月間である3月には、SNS(ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス)による相談事業がおこなわれ、その相談を国より請け負い実施した13団体の1つ。



橘さんの癒しのマルコ

ちゃん産んだ後どうするの?とか、聞いて伝えるだけではなく、彼女たちにとって必要な場所に繋ぐ人が必要なんだと感じました。そしてBONDプロジェクトというものを作りました。



プロジェクトに携わっている方は何いらっしゃいますか?

初期は3人でした。現在はメインで活動してくれている人が6人で、後は学生さんや20代、30代の2人が週1、週2で手伝ってくれています。その人たちが4人くらいなので、大体10人くらいでやっています。

相談を受けるのは10代がほとんどなので、10代は関係ありません。25歳になってようやく話せるようになる子もいます。出会ったそのタイミングで背中を押せたらいいなって思っています。



声をかけた時に断られる事は多いのでしょうか?

断られることも多いですね。でも声かけて出会った子とは、結構、長く縁が続くかな。「またジュンさんと会うにはどうしたらいいの?」って言ってくれるのでBONDに連れて来て、活動内容を説明



渋谷で活動中

保護された女の子とはどのように関わっているのですか?

女の子たちは心を開いてくれるまでに時間がかかるので大変です。ずっと虐待を受けてた子が私たちと出会うのが10代後半から20代前半で、そのうち私たちが一緒に過ごせる期間は1、2年。それだけでは彼女たちの人生は簡単にはひっくり返りません。でも大切にしてもらえる彼氏ができたり、仕事見つけて一人暮らしができたり、そういう一人で自分の事を自分でできるようになるまで見守るつもりなので。本当に困っている時に立ち寄ってくれる場所、人という形で関わりは続けていきたいです。

もう相談に来なくなつたと知ると、凄く

嬉しくなります。でもだからと言って、もう大丈夫とは思ってはいません。とりあえず今は大丈夫だけど、また連絡して来るかもしれないので、その時はまたよろしくね、という距離間で、「死にたい」として声が出た子が、生きている。そういう意味では生きるチカラってちゃんと信じてあげないと、関わるのができなくなるので。死にたいのはわかる。でもあなたは今生きているから。なんとなく生きてる。でいい。ちゃんと生きようなんて思わなくてもいいんだってことを伝えていきたいです。

仕事とプライベートの両立について教えてください。

私はオンとオフのスイッチがあまりないんです。私が体調を崩したりしても一緒に働いてくれるスタッフが、とても信頼でき、代わりに仕事などを繋いでくれるので、辛くはないですね。BOND作って良かったなって思った事は、その困ってる子が私を通してスタッフと出会えること。彼女たちはスペシャリストだと思っているので。プライベートでだらけていたり、少しネガティブになってしまっても、絶対何とかなると思えるんです。なので常に私がやらなきゃ、と責任感を背負いすぎずに、休みたいと思えば休ませてもらえます。だからプライベートの時間はちゃんと確保できています。



今後、BONDプロジェクトをどのように広めていきたいですか？

SNSを使って、情報発信をしていくことは絶対必要だと思います。新聞やテレビは大人の方に知ってもらえるので大事ですが、困っている子たちに声を届けることを一番に考えて、発信していく必要がありますので、SNS上のツールを使って、ネットバトルもしていきたいですね。『#死にたい』『#神待ち』などのタグを付けている子を見つけて、声をかけて、私たちの存在を知ってもらおう。こういう居場所もあるよ、選んで相談してくれたら、あなたの味方になるよって。

最近、SNSではハッシュタグ(＃)*が本当にたくさん使われているんです。『#家出してる子』『#逃げ場』とか、『#パパさん募集』『#パパ活』『#居候』など色

*ハッシュタグ(＃)：SNS上で特定のテーマについての投稿を検索するための機能。『#○○○』など＃の後にキーワードを付与して検索する。

んな言葉があって、こつやって誰かと繋がりたい、居場所が欲しい、という思いをSNS上でしか繋がろうとしない子たちもいます。それは自殺願望や、困っている事とイコールだと思っているので、そういう子たちにまず声をかけるってことを心がけています。死にたい消えたいだけじゃなく、そういうのも全部声をかけようと思ってます。

プロジェクトの活動の先に、どのような目標がありますか？

今ある既存の制度では、守り切れずにこぼれ落ちていく女性たちがいます。その女性たちの為に、若年女性に特化した支援活動を行っているこうと思っています。私たちの活動は、目の前に助けなくてはいけない子たちがいるからやらざるを得なくなっているだけで、本当は行政がやるべきものだと思います。

セーフティーネットとして、風俗とか、泊めてくれる『#神待ち』の男性ではなくて、ちゃんと支えてくれる人が彼女たちのことを考えて、応援する、そういう制度を作っていきたいですね。

目の前にいる行き場のない子が居場所の

一つをBONDだと思ってくればいいと思っています。ずっと相談してほしいわけではなくて、私たちは通過点でいい。ただ、何かあった時に立ち寄ってくればいいんです。そういう意味ですと居場所を作っていきたいなと思っています。

最後に、マイセルフを手にとっていたあなた方に一言お願いします

人前で表面的な自分のしつかりした姿だけをみせていて、でもとても悩んでいることを言えない子もたくさんいます。私の周りにはいないと思うかもしれませんが皆さんが今回、色んな子がいることを知ってくれたことによって、少しでも気づいてあげられる、気にかけてあげられる心を持つてもらえたら嬉しいですね。

どんな子でも「死にたい」という悩みがあってもおかしくないと思っています。相談してくれば良かったのに、ってお互いに後悔したくないので、やるべきことをこれから続けていきます。



街中での活動中の橘さん「VOICES」を手

編集後記

SNSがある現代だからこそその危険性を考えながら、助けを求める声を聞き逃さずに話を聞いて救ってあげること、ネットパトロールの活動のお話が残りました。同性に話を聞いてもらうことの重要性、支援してもらうことの意味を感じました。

(石井美帆)

電話対応のみならず、メールやSNS相談など多くの手段で女の子達に対応することや、自分の年代にあったスタッフの方の存在は、若年女性にとっては言葉に表しにくいことでも相談できる場所である秘訣なのだと感じました。そうすることで新たな一歩を踏み出せる女性が増えていくのだと思います。

(木村早希)

「生きづらさ」を感じている若い女の子にとって、声を上げるきっかけとなり、自分の悩みを受け止め、一緒に解決の方向に繋げてくれるBONDプロジェクトは心強いものだと感じました。お話の中にもあったようにまず聞くということはとても大切なのだと思いました。

(黒木鈴音)

心を閉ざしている人や生きていくことがつらいと感じている人に声をかけていくことは簡単ではないと思います。BONDプロジェクトは人の心に響く、希望のような場所であると思いました。自分の意見を話すのではなく、寄り添い、相手の話を聞くことの大切さを学びました。

(鹿野愛莉)

テレビなどで酷い境遇の子がいる事は知っていたけれど、今までその実感が殆どありませんでした。今回の取材を通して、もっと正面から向き合っていかなければならぬ問題だと強く感じました。全ての人が、明るい温かな場所で生きられる社会を強く

望みます。

(堀江瑠夏)

「#神待ち」を検索してみて驚きました。女の子たちがこんなに苦しんでいること、このような生活をしている子が映画や本の世界ではなく現実にいること…。今回の特集が彼女たちの現状を知るきっかけになり、何かが少しでも変わればいいなと思います。

(山野萌里)

取材時、メールボックスに寄せられた「生きるのが辛い」「死んでしまいたい」という言葉の羅列を目の当たりにし、言葉を失いました。自分にもできることはないか、考えるきっかけになりました。社会全体で向き合うべき問題ではないでしょうか。

(渡辺理沙)

彼女達の生きづらさをなくせるのは同じ社会に生きる私達しかないからこそ彼女達に寄り添っていくことが大切だと思います。

(永合優奈)

単純に同情するだけではこれらの問題は解決することが難しいという事を痛感させられました。また、SNSを使った支援もあり、時代に合わせた新しいアプローチも大切だと感じました。

(山崎真穂)



編集委員

AV（アダルトビデオ）出演強要・JK（女子高生）ビジネス問題・デートレイプ問題といわれる若い女性が被害を受ける深刻な問題が発生しています。

つらそうにしている人、いませんか？

AV出演強要とは

モデルになれると誘われたのに

高収入のアルバイトに応募したら…

一人で誰にも言えずに悩んでるかもしれません。まわりの大人が関心を寄せることで防げる被害があります。

「アイドル・モデルにならないか」と誘い、性的な行為の写真や動画を撮られるケースがあります。

JKビジネス問題とは

JKリフレ

JK散歩

JKカフェ

おしゃべりするだけ！時給もいい！そんなバイト募集広告が実際には性的な行為を含むバイトだったりします。

デートレイプ問題



飲み物に睡眠薬を入れられ、性暴力の被害にあう。そんな被害が増えています。

もう悩まないで。まずは相談！

大事になっちゃうかも？！それよりあなたが大切です。プライバシーも守られます。

詳しくは『男女局 AVJK』で検索！内閣府HPでは、事例や相談窓口などを紹介しています。

被害にあわないために

安易に

冷静に考えて

少しでも嫌なら

個人情報を教えない

その場で契約しない

迷わず断りましょう

未成年者の場合は、保護者の同意のない契約は原則として取り消すことができ、違約金を支払う義務はありません。家族や周囲との日ごろからのコミュニケーションと共に、自分自身を守るために正しい知識を得ることが大切です。

■ 第16期行動計画推進会議報告書

平成30年3月28日、第16期品川区行動計画推進会議の委員が約2年の任期を終え、これまでの検討成果をまとめた報告書を市川美知会長から濱野区長へ手渡しました。

同会議は平成28年6月に発足し、区長から諮問されたテーマ「男女共同参画のさらなる推進に向け、男性も女性も輝く社会を実現するために地域社会では何をすべきか(課題と環境づくり)」について、全10回もの会議等を重ね審議してきました。

市川会長は「一から議論を重ねて、区民目線で自分たちの言葉で実効性のある報告書作成に努めてきました。区内の関係部署の方々にご覧いただき、今後の区の施策に生かしてください」と話し、報告書を濱野区長に手渡しました。



■ 『マイセルフしながわプラン～誰もが自分らしく～』策定について

区では平成21年10月に「男女共同参画のための品川区行動計画(第4次)」を策定し、推進してきたところですが、この計画期間が平成30年度で終了となるため、「男女共同参画のための品川区行動計画(第5次)」、「品川区配偶者暴力対策基本計画」および「品川区女性活躍推進計画(新規)」をまとめて「マイセルフしながわプラン～誰もが自分らしく～」として平成31年に策定するために6月より検討を始めました。策定検討委員会は学識経験者5名、区民公募委員3名の計8名で構成されています。



*第16期の報告書およびマイセルフしながわプラン策定検討委員会の議事録(要旨)は品川区のホームページより閲覧できます。

🌸 講座報告 🌸

■ 男女共同参画推進講座(2月20・27日3月6日(火) 参加者延41名)

『よりよい人間関係を結ぶアサーティブコミュニケーション』

講師 小柳 茂子氏(相模女子大学教授・臨床心理士)

アサーティブな表現とは、言葉だけでなく、態度(姿勢・表情など)、非言語(表情・声の強弱・声音など)、相手に対する思い・気持ち、雰囲気などを含め、相手に対する自分の考えや気持ちをさわやかに表現することです。

ロールプレイでは、具体的例題を基に、アサーティブにNOと言える「NOの言い方のコツ」などや、I(私)メッセージで、要求や提案はシンプルに、ていねいに、表現することも学びました。

参加者からは、「例題やロールプレイをすることで、よりはっきりアサーティブな表現というのが分かるようになりました。」「私には話の間を持つことが大切だと知りました。相手の気持ちも大切に考えながら間を持ちたいと思います。」「アサーティブは、自分を表現することだけに目が行きがちでしたが、他者尊重、相手の気持ちを考えながら、自分の気持ちを伝えられるよう努力していきたいです。」などの感想をいただきました。



■ ワーク・ライフ・バランス講座(3月8・15日(木) 参加者延32名)

『外へ一歩出る前に～円滑なコミュニケーションスキルを身に付けよう!～』

講師 結木 利奈氏(㈱インビジブルビジョンズ代表)

1日目は「好感が持たれる心地良い発声方法」

第一印象の重要性から好感が持たれることの大切さを学びました。つぎに、姿勢、呼吸、発声方法などから自己治癒力を高めるヴォイスセラピートレーニングを実施しました。さらに、幸せを呼ぶ“声”の法則も学びました。

2日目は、「人に好かれる所作と嫌われる所作」

座り方、立ち方、歩き方などの好感が持たれる基本所作の確認を行いました。また、性格診断テスト「エゴグラム」を活用した自己分析を行い、想像型、行動型などのタイプ別特徴や好みを知り、それぞれに適応した仕事と人との関わり方からゆとりある生活を求める術を学びました。

参加者からは、大変参考になったとの声が多く寄せられました。



■ デートDV出前講座 (3月19日 都立小山台高校定時制生徒 参加者52名)

『デートDVってなァーに?!~互いに尊重し合う関係へ』

講師 野本 美保氏・河西 ひとみ氏 (NPO法人 女性ネットSaya-Saya)

デート DV について詳しく知らない高校生に向けて、デート DV とは何かを 1 から教えていただきました。受講生からは「人に対してどのように関わればよいか学ぶことができました。」「暴力は、いかなる理由でも『愛』には繋がらないと実感しました。」などの感想が寄せられました。

行ったアンケートでは「デート DV をされた事・した事がある」という質問に「ある」と回答した方は数人いました。この講座が人との関わり方を見直すきっかけになったと思います。



講座のお知らせ

- 会場 品川区立総合区民会館さゆりあん (品川区東大井5-18-1)
- 問合せ先 男女共同参画センター 電話 5479-4104 FAX 5479-4111
- 定員 25名 託児あり (定員に達している場合もありますのでご了承ください。)

※以下の内容は原稿作成時のものです。最新の情報は広報しながわおよび品川区HPでご確認ください。 ※日時が変更される場合があります。

開催日	内容	募集掲載予定 広報しながわ
9月21日🌞 午後6時30分~8時30分	「アンガーマネージメント講座~怒りのコントロール術~」 怒りの感情を上手にコントロールする方法を学びます	8月21日号
9月28日🌞 午後6時30分~8時30分	デート DV 講座 「デート DV ってなァーに?!~互いに尊重しあう関係へ~」 子どもたちを加害者にも被害者にもさせないために知っておきたいこと	8月21日号
10月19、26日🌞 午後1時30分~3時30分	文学と男女共同参画講座 「ロミオとジュリエット~女性の自立を考える~」(2日制)	9月21日号
1月 午後6時30分~8時30分	DV講座 「DVについて知っていますか? (仮)」	12月
1月22日🌞 午前10~12時	「アンガーマネージメント講座~怒りのコントロール術~」 怒りの感情を上手にコントロールする方法を学びます (9月の講座と内容は同じです)	12月21日号
2月12・19・26日🌞 午前10時~12時	身近なコミュニケーション講座 「よりよい人間関係を結ぶアサーティブコミュニケーション(初級)」 (3日制)	1月11日号
時期未定	防災カフェ女性向け講座 (仮)	

夫など、パートナーからの暴力に悩んでいませんか?

暴力は犯罪です。ひとりで悩まず、ご相談ください。

東京都の配偶者暴力相談支援センターなどもご紹介いたします。詳しいことは品川区男女共同参画センターへ Tel. 5479-4104

★男女共同参画センターDV専門相談……毎月第1・3・4・5🌞 午後1時~4時
……………毎月第2🌞 午後5時30分~8時30分 ※事前予約による面接または電話相談。

☆しながわ見守りホットライン ※24時間つながります。

(DV) Tel. 3777-6601 (児童虐待) Tel. 3772-6622 (高齢者虐待) Tel. 3772-6699 (障害者虐待) Tel. 3772-6605

★国 (内閣府男女共同参画局) の相談窓口「DV相談ナビ」……Tel. 0570-0-55210 (お近くの相談窓口を自動音声によりご案内)

★警察相談用電話……#9110 (最寄りの警察署の生活安全課でも相談できます)

⚡緊急のときは(身の危険を感じたら)……☎警察 110番 (事件発生時)

日時 11月10日(土) 開場13:00 開演13:30 (15:30終了予定)

会場 品川区立総合区民会館きゅりあん1階小ホール 入場無料 150名

事前申込制
(10月15日必着)
託児あり
1歳～就学前まで
手話通訳・
車イス席あり

講師 大崎麻子氏
関西学院大学総合政策学部客員教授
聖心女子大学非常勤講師

世界の男女たちは今
～もっと輝く、明日からの生き方～

思い込んでいませんか？

～ 視野を広げた先に見えるもの ～

往復はがきに『フォーラム参加希望』と記入の上、
①住所②参加者氏名(2名まで)③電話番号④託児希望の有無⑤手話通訳希望・車イスでの来場の方はその旨を明記の上、ご郵送ください。(託児有の場合はお子さんの氏名・月年齢も記入)
送付先: 〒140-0011 品川区東大井5-18-1きゅりあん3階
品川区男女共同参画センター

品川区 男女フォーラム

検索

詳しくは
10月上旬掲示・配布の
ポスター・チラシ、
品川区ホームページ、
広報「しながわ」10/1号
をご覧ください。

私たちが企画運営しています



男女共同参画センターからのお知らせ

女性相談員による相談室

人間関係、家族の問題、
配偶者や恋人などからの暴力(DV)や
性的マイノリティについて等、心や生き方の悩み
また離婚、相続等、法律に関することなど
お気軽にご相談ください
(性別問わずどなたでもご利用ください)

電話相談

※原則、品川区在住の方が対象です

カウンセラーによる電話相談

毎月第1・2・3木曜日 午前10時～午後4時

(ただし、木曜日が祝日の場合はお休みとなります)

正午～午後1時前後は休憩時間のため、対応できないことがあります。

終了時間が午後4時ですので、お電話は午後3時30分ごろまでお願いいたします。

専用電話 5479-4105

面接
相談

無料。事前予約が必要です。予約電話 5479-4104

※予約受付時間 平日午前9時～午後5時、1ヶ月前より予約できます

	相談時間	10月	11月	12月	1月	2月	3月
法律相談	午後1時～3時30分	3日(水)	7日(水)	5日(水)	9日(水)	6日(水)	6日(水)
	午後1時～3時30分	9日(火)	13日(火)	11日(火)	15日(火)	12日(火)	12日(火)
	午後5時30分～8時	15日(月)	26日(月)	17日(月)	21日(月)	18日(月)	25日(火)
カウンセリング相談	午後1時～4時	23日(木)	22日(木)	27日(木)	24日(木)	28日(木)	28日(木)
DV相談	午後1時～4時	5・19・26日(金)	2・16・30日(金)	7・21日(金)	18・25日(金)	1・15・22日(金)	1・15・22・29日(金)
	午後5時30分～8時30分	12日(金)	9日(金)	14日(金)	11日(金)	8日(金)	8日(金)

※法律相談は、弁護士に法律に関することを
カウンセリングはカウンセラーに心や生き方の悩み事を
DV相談は、専門相談員にDVに関する事を相談できます。
男性のDV相談は、事前予約の上で電話相談となります。

☆交流室や会議室を、男女共同参画の推進を目的とする活動や学習のために、ご利用ください。交流室には資料コーナーが併設されています。

◇交流室 18席(最大): 個人やグループの活動の場としてご利用ください。

◇会議室 36席(最大): 利用する場合は、あらかじめ団体登録が必要です。詳しくは男女共同参画センターにお問い合わせください。

特集記事にご意見・ご感想をお寄せください。お待ちしております。

○次号「マイセルフ 自分らしく」59号は平成31年4月発行予定です

マイセルフ-自分らしく-VOL.58(「しながわの女性」から通算すると88号) 2018年9月発行 品川区総務部人権啓発課男女共同参画担当
〒140-0011 品川区東大井5-18-1 品川区男女共同参画センター TEL. 5479-4104 FAX. 5479-4111 Eメール: danjo@city.shinagawa.tokyo.jp

●区内の各図書館、地域センター、文化センターなどで配布しています。 ※古紙を配合した紙を使用しています